

今年度の第3 2回住生活月間中央イベントは、10月17日、18日の2日間、北海道札幌市において記念式典、展示等を開催する予定で関係各所との準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、一か所に大勢の集客を目的とした事業を中止することといたしました。また、全国の住宅展示場等で住宅関係情報の提供を行う「住生活月間中央イベントキャンペーン」も中止といたしました。

このため、今年度住生活月間中央イベント事業としては、住生活月間中央イベントのホームページ「住宅・すまい Web」を通じて住情報の発信、第16回「家やまちの絵本コンクール」の公募を通じた住教育の啓発事業を行います。

なお、事業内容等は、次の通りとなります。

1. HP「住宅・すまい Web」での全国への情報発信事業 (<http://www.jutaku-sumai.jp>)

ホームページ「住宅・すまい Web」を通じての全国への住情報発信を行っておりますが、今年度も引き続き、住宅・すまいに関する価値の高い「住情報」の発信を行います。

「立体シンポジウム」では、注目されている各テーマについて、専門プロデューサーが多角的に語ります。

(1) 立体シンポジウム

○テーマ

「高齢社会とすまい・まち」

プロデューサー：小泉 秀樹 氏（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授）

高齢化の進む大都市圏の郊外住宅団地を対象として、コミュニティやすまいの再生、移動サービス、地域包括ケアシステムの構築など、先端的な技術や方法を取り入れた、新たな高齢社会対応のすまい・まちづくりのあり方を、各自治体や関連企業の取り組みを共有することで、検討する。

また、コロナウイルス禍の状況の中で、高齢化の進む大都市圏の郊外住宅団地の生活の現状や、課題についても、把握共有しつつ、郊外のあらたな価値創造の可能性をさぐる。

一連の活動をつうじて、高齢化の進む大都市圏の郊外住宅団地の **with&after** コロナ時代のあたらしいライフスタイルに対応したまちづくりの方向を探る。

「まちなみとすまい」

プロデューサー：浅見 泰司 氏（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授）

1) 人の行動とまちなみ構成要素との関連性把握

COVID-19の流行は近年において初となる人の交流、移動を制限する事態に至った。そこで今回はまちなみについて考えていく上で、こういった人の行動という観点に新たに着目する。分析手法としては東京都内の20年間における人の流動性変化に基づいた地域分類を行い、各分類地域における土地利用などのまちなみ構成要素の特徴を分析し、人の行動とまちなみの関連性について考える。さらにはCOVID-19の流行を踏まえ、今後の人の行動の在り方とまちなみの関連性についても考察する。

「環境とすまい・まち」

プロデューサー：岩村 和夫 氏（東京都市大学名誉教授）

住まいとまちづくりの分野における SDG s に焦点を当てるとともに、現在世界中で最も深刻な問題となっている新型コロナウイルスの爆発的感染に鑑み、SDG s との関連性を明らかにし、日本国内における住まい・まちづくりの分野におけるリスク低減に関する全体像をとりまとめ、広く関係者に紹介する。

「ライフスタイルとすまい・まち」

プロデューサー：松村 秀一 氏（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授）

生活することと働くことは、分かちがたく結びついている。今年度はクリエイターのライフスタイルに注目することで、仕事と生活の調和に関する取材を行う。

「教育とすまい・まち」

プロデューサー：小澤 紀美子 氏（東京学芸大学教育学部名誉教授）

従来からの継続として、住生活や住環境（まち）の質を高める教育・学習プログラムを以下の視点から紹介していくとともに、「住教育情報あれこれ」として住まい・まちの授業づくりに関する情報や教育実践研修などのお知らせを提供していく。さらに実践事例などのインデックスを検索しやすいようにHPの構成をアクセスしやすいように一新させたので、それを活かした展開をしていく。一方、教育改革にともなう、授業実践の考え方・展開の方針、特にE S Dを通してのSDG s への貢献を住教育ガイダンスで解説していく。

（2）その他の情報発信

- ・過去の住生活月間中央イベントアルバム

2. コンクール

第16回「家やまちの絵本コンクール」

家やまちに関心のある子どもや、子どもたちと大人の合作などを対象に募集、審査・表彰を行う。

（1）募集部門 A：子どもの部（小学生以下）

B：中学生・高校生の部

C：大人の部（18歳以上）

D：子供と大人の合作の部（小学生以下と18歳以上の合作）

（2）表 彰 国土交通大臣賞、文部科学大臣賞、住宅金融支援機構理事長賞、都市再生機構理事長賞、住生活月間中央イベント実行委員会委員長賞、入選作品、審査員特別賞

以上